

# ふゆ せいざかいせつ 冬の星座解説

冬、寒い寒い冬の夜。

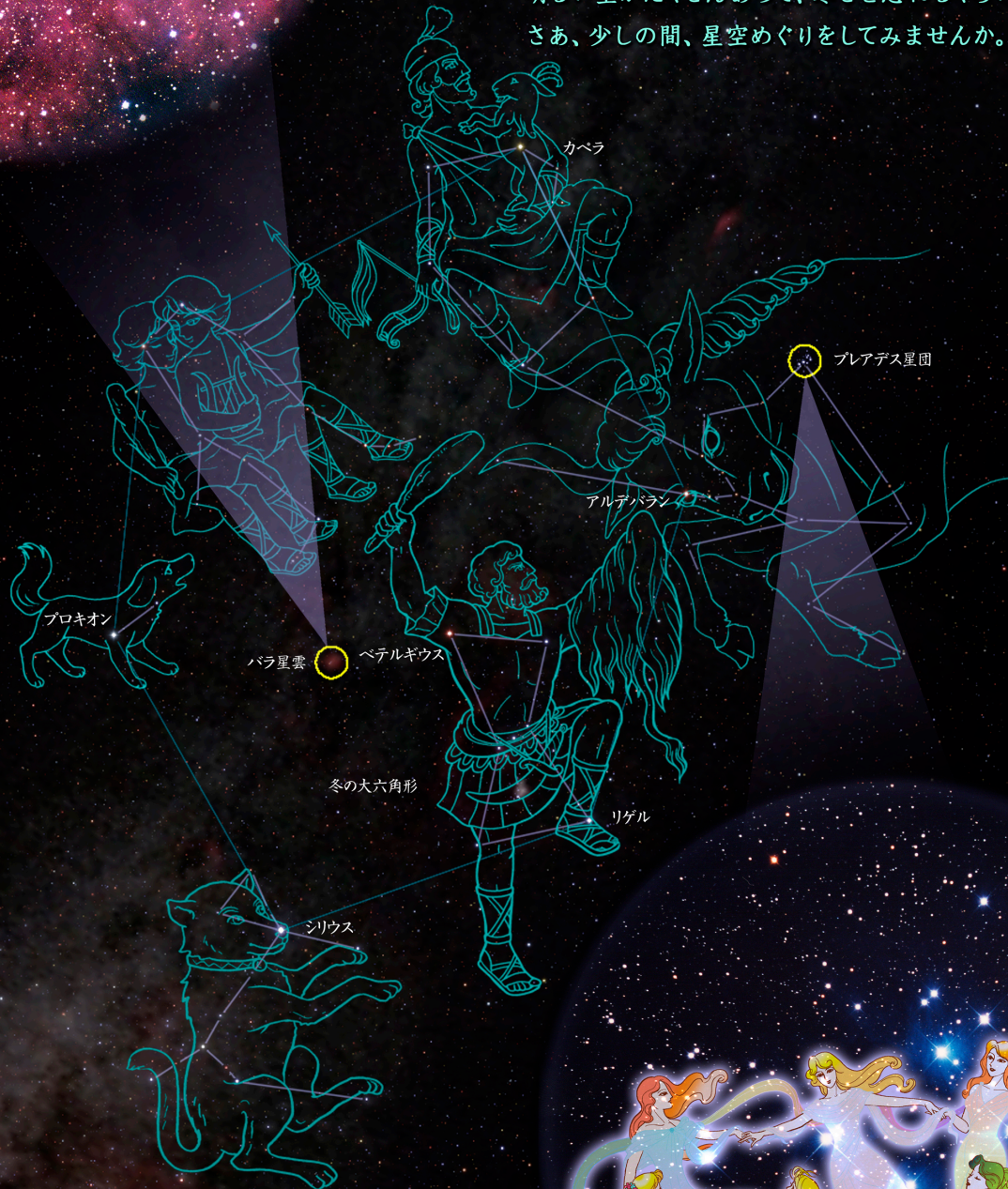
あたたかい家の中から一歩外に出ると、冷たい空気に凍えてしまいそうです。

でも、ちょっとがまんして夜空を見上げてみてください。

冬の星たちが、きらきらと輝いています。

明るい星がたくさんあって、寒さを忘れるくらいきれいです。

さあ、少しの間、星空めぐりをしてみませんか。



# ふゆ せいざかいせつ 冬の星座解説

冬、寒い寒い冬の夜。

あたたかい家の中から一歩外に出ると、冷たい空気に凍えてしまいそうです。

でも、ちょっとがまんして夜空を見上げてみてください。

冬の星たちが、きらきらと輝いています。

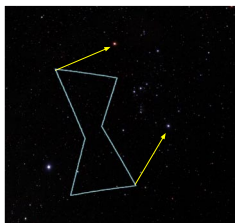
明るい星がたくさんあって、寒さを忘れるくらいきれいです。

さあ、少しの間、星空めぐりをしてみませんか。

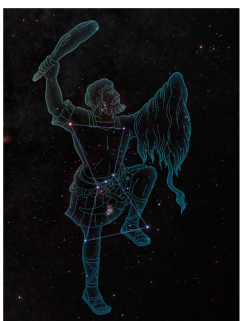
(約 16 分 30 秒)

## 冬の星座で有名なのがオリオン座

南の空を探してみてください。きれいに並んだ3つの星と、その周りを囲む4つの星。オリオン、というのはギリシャ神話に出てくる狩人で、こん棒を振りかざした勇ましい姿をしています。オリオンの肩のあたりに輝く明るい星は、『ベテルギウス (巨人のわきの下)』。左足に輝く星は、『リゲル (巨人の左足)』。ベテルギウスは赤い星、リゲルは



白い星。日本でも赤と白の星の色を、源平合戦の旗の色に見立て、『平家星』『源氏星』と呼んできました。

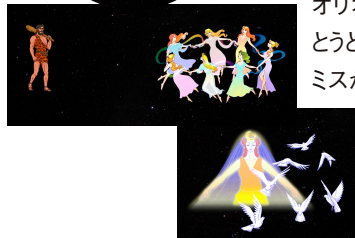


## バラ星雲とプレアデス星団

この三角形の中には、こんな天体がかくれています。星空の中に咲いた真っ赤な花、バラ星雲です。このバラ星雲の中からは、次々に新しい星が生まれています。オリオン座の右上の方にある赤い星、これはおうし座の目のところにある『アルデバラン』。その先のおうしの肩のあたりに、6～7個の星が集まっている、プレアデス星団があります。7人の美しい姉妹が星になった姿だといわれています。昔、プレアデスという

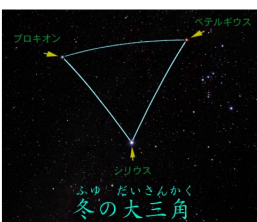


仲の良い7人の姉妹が、森の中で遊んでいました。そこに通りかかったのが、狩りの途中のオリオン。美しい姉妹を一目見て気に入ったオリオンは、一緒に遊ぼうと誘うのですが、乱暴者のオリオンを好きではなかった姉妹は断ります。オリオンは逃げる姉妹を森中追いかけて回しました。とうとう追いつかれそうになったその時、女神アルテミスが、彼女たちを7羽の真っ白な鳩に変えて逃がしてあげました。鳩になったプレアデス姉妹はそのまま空に上がり、星になりましたが、あきらめきれないオリオンは、自分も星になって追いかけているのです。



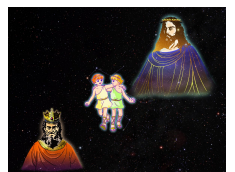
## 3つの明るい星でつくる冬の大きな三角

オリオン座の三ツ星からずっと左下の方に目を移してみると、とても明るい星が見つかります。これはおおいぬ座の『シリウス』。『焼き焦がすもの』という意味の名前です。おおいぬ座は、狩人オリオンにつれられた獵犬の星座。シリウスは犬の鼻先に輝いています。オリオンがつれている犬はもう一匹。それがこいぬ座。おおいぬ座の上の方に、ちょこんとかわいらしい子犬がいます。この明るい星は、『プロキオン』。おおいぬ座のシリウスよりも先にのぼってくることから、『犬のさきがけ』という意味を持っています。オリオン座のベテルギウス。おおいぬ座のシリウス。こいぬ座のプロキオン。この3つの明るい星を結ぶと、きれいな三角形が描けます。これが『冬の大きな三角』です。



## 冬の大きな六角形・冬のダイヤモンド

おうし座の角の先には、こやぎを抱いたおじさんの姿のぎょしゃ座があります。このやぎのところに輝く明るい星が『カペラ』。おとなりには、仲良く並んだふたつの明るい星、ふたご座があります。少し明るい左側の星が弟の『ボルックス』、ちょっと暗い右側の星が兄の『カストル』。なぜ明るさが違うのでしょうか？ 実は、双子とはいえ、ボルックスの父親は神々の王ゼウス、カストルの父親は人間のスパルタ王だから、というわけ。さてもう一度明るい星をおさらいしてみましょう。オリオン座のリゲル。おおいぬ座のシリウス。こいぬ座のプロキオン。ふたご座のボルックス。ぎょしゃ座のカペラ。おうし座のアルデバラン。この6つの星を結ぶと、大きな大きな六角形ができあがります。これは『冬の大きな六角形』とか『冬のダイヤモンド』と呼ばれています。



語り：鶴ひろみ 天体写真：NOAO/AURA/NSF 久保田宏 CG：NOBO 星座・神話イラスト：塚田洋子